

令和3年度

公益社団法人 伊勢市観光協会

事業報告書

公益社団法人伊勢市観光協会 令和3年度事業報告

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた年度となりました。年度当初の4月には東京をはじめとする地域に緊急事態宣言が発出され、さらに8月には三重県にも拡大し全国規模での展開となり、観光客の入り込みに大きく影響しました。その後、オミクロン株の感染拡大をみたものの、重症化のリスクが低いとされることや2度のワクチン接種人口の増加などから、年度末には若者を中心とした観光客の回復傾向が見られました。

しかしながら、伊勢観光の特徴である団体旅行に関しては、感染予防の観点からの出控えが続き、低い回復率となりました。一方、昨年度に引き続き学生団体(修学旅行、遠足等)については、近県および県内の学校が、従来の目的地から、遠隔地を避け感染機会の少ないアウトドア体験などを目的に伊勢志摩へ変更するケースが相次ぎ好調に推移しました。

当会事業への影響としましては、昨年度と同様に集会集客を伴うイベントや、県外移動を伴う事業が中止を余儀なくされました。また、来訪者減少と公共交通機関の利用率低下により、レンタサイクル事業と手荷物事業に関しましても大幅減収という結果となりました。

伊勢市との新型コロナウイルス対策事業におきましては、昨年度に引き続いてアルコール設置事業を推進し、また、混雑状況を確認できる非接触型デジタルサイネージの導入、リモートでのアンテナショップ「ISE SHOP」の運営、伊勢のリピーターを繋ぎとめる「伊勢リピーター繋がり構築事業」として伊勢人の思いの詰まった動画や小冊子の作成及びリピーターへの配布、コロナ禍における新たな旅行としてのオンラインツアーの造成補助などを実施しました。その他の事業に関しましても、刻々と変化する情勢を見極め、事業を実施しました。青年部事業に関しましても、中止縮小が相次ぐことになりました。

収益事業の物品販売事業におきましては、伊勢市ふるさと応援寄付金返礼品の取り扱い手数料の見直しや資金の流れの再構築など改善を果たしました。返礼品の充実や地道なPR等により、寄附件数が大幅に増加する結果となりました。

上記のように、当会は当地の観光協会として行政と協働し、コロナ禍における市内事業者の支援、情報発信等に注力してきました。未だ出口の見えない新型コロナウイルスとの戦いにおいて、令和3年度会費に関しては特別措置として半額とし会員を応援しました。

引き続き地域の観光協会として地域の観光業を支え、新型コロナウイルス終息を見据えた事業を実施していく所存です。

なお、具体的な事業内容は以下のとおりです。

＜公益目的事業—旅客誘致事業＞※見出し横の事業費は経常費用を記載しております

1 広報宣伝事業(情報発信部会、青年部、事務局)

① インターネットによる情報の発信(IT 委員会、事務局) 1,547千円

コロナ禍においては、インターネットの情報発信が特に観光地とお客様を繋ぐ強力な手段となるという認識から、当会が管理する伊勢の観光ホームページにおきましても発信力の強化を図るために刷新を図り、R3年4月から新ページをスタートさせました。引き続きスマートフォンに主軸を置きながら、「現地」ならではの情報発信をめざし、朔日参りなどの特集記事の作成やフォトライブラリーの構築を行いました。

新ホームページを開始した令和3年度のホームページアクセスのページビュー数は、1,189,398 件(前年度 702,263 件:前年度対比 169%)、セッション数は 491,095 件(前年度 335,625 件:前年度対比 146%)となり、コロナ禍でありながら、伸び率は好調となりました。

ホームページ閲覧数

	PV	セッション	PV(英語)	セッション(英語)
令和3年度	1,189,398	491,095	7,157	2,069
令和2年度	702,263	335,625	3,214	1,127
増減	487,135	155,470	3,943	942
昨年対比	169%	146%	223%	184%

なお、SNS については、令和3年度は主に発信力が高く安定しているインスタグラム(令和2年度開始)の強化に取り組みました。令和4年3月末時点のフォロワー数は 2,874 人(昨年度 1,019 人、前年比 282%)で激増しました。ツイッターも 4,393 人(昨年度 3,650 人、前年比 120%)で好調に推移しています。

SNS フォロワー数

	Facebook	Twitter	Instagram	合計
令和3年度	2,647	4,393	2,874	9,914
令和2年度	2,581	3,650	1,019	7,250
増減	66	743	1,855	2,664
昨年対比	103%	120%	282%	137%

② インターネットによる情報の発信/AI チャットボット設置等

(IT 委員会、事務局) 10,177千円

三重県と伊勢志摩エリアの連携事業「観光地の『まちあるき』の満足度向上整備支援金事業」として、観光庁と三重県から補助金を取得し、AI チャットボット(日本語・英語)の設置、ホームページ自動翻訳内容の強化、ライブ配信及び PR 動画の作成を行いました。

AIチャットボットは構築して 11 月に設置、日本語版は実証実験を経て年度内に終了しました。英語版の AI チャットボットは三重県のランニングコスト負担にて

継続的に伊勢志摩エリアで運用しています。ホームページ自動翻訳内容の強化については、16 ファイルの内容を英語・簡体・繁体・タイ語・フランス語にて、誤訳の修正を行いました。修正内容の反映作業については今年度伊勢市の方で更新する予定です。また、ライブ配信及び PR 動画の作成については、外国人向きに伊勢のお寺と自然(国立公園)にスポットをあてた動画を英語と中国語で作成し Youtube・Facebook・Instagram・twitter に加え、Vimeo・tiktok といった新しい媒体での発信実験を行いました。また、松尾観音寺の初午の様子を Facebook・Instagram・twitter でライブ配信しました。

※情報発信事業として、観光 PR のキャラバンを予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、全ての PR イベントを中止としました。

③ PR グッズ作成 365千円

観光 PR 用に下記のグッズを作成しました。

- ・ 紙石鹼 300 個
- ・ コットンバッグ 300 枚
- ・ コットン巾着 300 枚
- ・ エチケットバッグホルダー 300 個
- ・ クリアファイル 2,000 枚

④ 紙媒体による情報発信(パンフレット/リーフレット) 2,112千円

紙媒体として情報発信を担うパンフレット/リーフレットにおいては、行政と協働し観光パンフレット及び地図を作成し、観光案内所等で配布をしています。

昨年度と同様新型コロナウイルス感染拡大により、来訪者数の減少が見込まれるため、パンフレットは「日本の源」、「市内MAP」、「二見まちあるき MAP」に絞り増刷を行いました。

◇パンフレット及びリーフレット印刷について

No	事業パンフレット名	当初数量	最終数量	備考欄
1	ええじゃないかお伊勢さん	10,000	0	総合パンフ
2	日本語パンフレット(日本の源)	30,000	20,000	総合パンフ(概要)
3	外国語パンフレット	30,000	0	英語、仏語、繁体字、 簡体字、タイ語、韓国語
4	市内 Map(てくてく)	150,000	150,000	基本地図
5	二見まちあるき MAP	15,000	15,000	
6	ランチガイド	12,500	0	

⑤ 伊勢市観光大使及び伊勢市観光御師(御師委員会) 120千円

首都圏等における情報発信を円滑且つ効果的に進めていく為に、協会は観光大使・観光御師制度を設けております。現在、次頁の方々に委嘱をさせて頂いております。残念ながら本年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、御師会議並びに伊勢観光振興交流会は中止としました。

なお、長年にわたり観光御師をお勤め頂いた、北村敏夫氏につきましては、一身上の都合により、観光御師を令和3年度限りでご辞退されることになりました。

観光御師ネットワーク構築事業では、全国に観光御師に次ぐ人材を確保し、伊勢とのネットワークを構築することを目的としております。本年度は北海道札幌市においての最初のネットワーク組織設立を予定しておりましたが、残念ながらコロナウイルス感染拡大により延期しました。今後は、新型コロナウイルスの収束を待って事業を再開します。

◇伊勢観光大使並びに観光御師名簿

(令和4年3月末時点)

	所 属	役 職	氏 名
観 光 大 使		アスリート	野口 みずき 氏
	ファンタシウム	タレント	楠田 枝里子 氏
	トゥーフロント	女優	夏樹 陽子 氏
観 光 御 師	(株式会社ジェイティービー 元相談役・元会長・社長)		船山 龍二 氏
	株式会社共立メンテナンス (岡三興業株式会社 元代表取締役社長)	リゾート事業部 特別顧問	松本 久雄 氏
	株式会社びゅうトラベルサービス (日本観光振興協会 元理事長)	顧問	見並 陽一 氏
	人流・観光研究所 株式会社東麻布企画 (元加賀市長)	所長 社長	寺前 秀一 氏
	三井住友信託銀行株式会社	名誉顧問	村上 仁志 氏
	東勢会/瑞泉古酒の会 (セコム株式会社 元専務取締役)	会長	佐々木 信行 氏
	(澁澤倉庫株式会社 元社長・会長)		北村 敏夫 氏
	東海旅客鉄道株式会社	特別顧問	松本 正之 氏

⑥ 外国人観光客誘致事業(情報発信部会、インバウンド委員会) 69千円

新型コロナウイルス感染症の拡大が進む中、現地に出向いてのインバウンド誘客および情報発信については事業実施を断念することになりました。今年度も、シンガポールにて開催された「伊勢志摩パールジュエリーグランプリ 2021」にパンフレット等の送付を行い、新しい試みとしてオンラインツアー配信を行い、リモートにて伊勢の情報発信を行いました。また、三重県と伊勢志摩観光コンベンション機構で開催されたインバウンドランドオペレーターとの商談会等にも参加するなど、現下において実施可能な事業を推進しました。

また、インバウンド向けパンフレットを、関東圏・近畿圏のゲストハウス 652 件に送付し、国内在住外国人やアフターコロナのインバウンドに向けて伊勢を紹介していただけるよう取り組みました。

⑦ 観光 PR 事業(情報発信部会、青年部、事務局) 0円

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、当初予定していた全ての県外 PR イベントを中止しました。

⑧ 日本観光祈願祭及び観光交流伊勢会議

(観光交流伊勢会議実行委員会) 30千円

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から会長、副会長、専務理事の役員のみでの開催とし、第 54 回日本観光祈願祭を 9 月 16 日に外宮にて開催しました。観光産業の健全な発展と旅行の安全と、感染拡大の早期終息を祈願しました。

なお、観光交流伊勢会議は中止しました。

⑨ SNS 情報発信事業

詳細は青年部伊勢 PR 委員会参照

2 誘致接遇事業

① 観光案内所事業(事務局) 34,721千円

外宮前、宇治山田駅、伊勢市駅、宇治浦田及び二見浦観光案内所について

案内所実績表

	外宮前	宇治山田駅	伊勢市駅	宇治浦田	二見浦	合計
令和3年度	28,673人	6,549人	30,113人	11,033人	9,225人	85,593人
(うち外国人)	(71人)	(18人)	(134人)	(14人)	(41人)	(278人)
令和2年度	28,993人	6,530人	29,231人	11,320人	10,735人	86,809人
(うち外国人)	(92人)	(14人)	(171人)	(15人)	(54人)	(346人)
対前年比	98.90%	100.29%	103.02%	97.46%	85.93%	98.60%
(うち外国人)	77.17%	128.57%	78.36%	93.33%	75.93%	80.35%

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言や県境をまたいだ移動の制限など、旅行ができない状態が長く続いたことから、来訪者数が戻らず令和2年度並となりました。緊急事態宣言が出た8月末から9月末にかけては観光案内所を閉鎖して感染症への対応を行いました。GOTO キャンペーンが実施された令和2年度より、実施されなかった令和3年度の方が客数には影響があったと分析できます。なお、神宮参拝者数と案内数の対比から、令和3年度は県民の県内観光施策が実施されたため、市民のパンフレット利用があったと推察されます。

案内所案内数と神宮参拝者数の割合

※神宮は暦年・千単位

	5案内所 総計	神宮参拝者数	割合
H27年度	262,438	8,382,000	3.1%
H28年度	314,199	8,739,000	3.6%
H29年度	318,553	8,798,000	3.6%
H30年度	287,224	8,505,000	3.4%
H31年度 R1年度	212,340	9,729,000	2.2%
R2年度	86,809	5,538,000	1.6%
R3年度	85,593	3,827,000	2.2%

新型コロナウイルス感染拡大だからこそ見えてきた感染症対策や DX 推進に鑑み、案内機能の効果的効率的な運営について、観光協会が事業受託を継続できるように伊勢市と協議しながら取り組みます。

・三重とこわか国体・三重とこわか大会臨時案内所の開設 1,269千円

とこわか国体臨時案内所を五十鈴川駅に開設する予定であったが国体が中止になったため開設を取り止めました。しかし、人員を確保してあったためキャンセル費用は発生しました。

・外宮前建屋における漏水対策工事 3,330千円

建屋経年劣化のため、雨水の漏水が酷くなったため、壁面に防水対策塗装を施しました。工事の結果、以前のような激しい漏水は発生しなくなりました。

② 手荷物事業(事務局) 5,073千円

来勢されるお客様への更なる便宜を図るため、伊勢市駅と、宇治山田駅にて手荷物一時預かり及び宿泊先への配送事業を実施しました。手荷物事業に付帯して伊勢市駅手荷物預り所建屋の管理(多目的トイレ、授乳室、休憩所など)、レンタサイクルの貸出、簡単な観光案内などを行っております。

鉄道やバスなどの公共交通機関がコロナ禍において大きく乗降者数を減らしており、手荷物取扱件数も同様に減少しました。手荷物預り所では、緊急事態宣言下の閉所(8月後半～9月末)などの対応を行いました。厳しい推移となりましたが、年度後半にかけては回復傾向となっております。

伊勢市駅では、総取扱い金額で 835 万円(前年度 548 万円)、うち手数料収益 84 万円(前年度 57 万円)、宇治山田駅では総取扱い金額で 52 万円(前年度 60 万円)、うち手数料収益 5 万円(前年度 6 万円)と、伊勢市駅では増収となり、宇治山田駅では減収となりました。

外宮前観光案内所では、外宮参拝者への便宜を図るため、手荷物の一時預かりを実施しております。実績に関しては、当所も同じくコロナ禍の影響を受け厳しい状況が続いておりますが、令和3年度は微増となりました。収入額で 73 万円(前年度 63 万円)となりました。

単位:個

◇手荷物預かり実績

	伊勢市駅 手荷物預かり所		宇治山田駅 手荷物預かり所		外宮前 観光案内所	合計
	預かり	配送	預かり	配送	預かりのみ	
令和3年度	10,331	3,611	375	394	2,458	17,169
令和2年度	4,728	3,604	484	449	2,110	11,375
増減	5,603	7	△ 109	△ 55	348	5,794
対前年比	218.51%	100.19%	77.47%	87.75%	116.49%	150.93%

③ 「お伊勢さん観光ガイドの会」 178千円

(お伊勢さん観光ガイドの会運営委員会、おもてなし行事部)

外宮前観光案内所において、神宮のガイド「お伊勢さん観光ガイドの会」が常駐し、日々観光客のご案内に務めています。現在の会員数は 53 名。

本年度のガイド件数は 851 件(前年度 978 件)で 2047 人(前年度、4,380 人)の観光客を案内しました。件数ベースで約 87%と減少しております。要因としては、緊急事態宣言による活動停止期間が長引いた事と人との接触をなるべく少なくする旅行形態が多くなったことが考えられます。

今年度も感染拡大対策として、非接触型電子体温計による検温の実施、案内時のマスク着用を行い安全とおもてなしの両立を図りました。

	案内件数	案内人数	件数 対前年比
令和3年度	851	2,047	87%
令和2年度	978	4,380	26%
令和元年度	3,712	11,818	99%
平成 30 年度	3,763	11,774	93%

④ レンタルサイクル事業(事務局、青年部) 889千円

78 台の自転車(外宮前 12 台、宇治山田駅 6 台、伊勢市駅手荷物預り所 30 台、オレンジカフェウッド 13 台、伊勢シーパラダイス 10 台、パールピアホテル 5 台、コンフォートホテル伊勢 2 台)を維持管理し、運用しています。(オレンジカフェウッド、伊勢シーパラダイス、パールピアホテル及びコンフォートホテル伊勢は委託)

本年度貸出台数は 2,840 台(外宮前案内所 808 台、宇治山田駅案内所 87 台、伊勢市駅 1720 台、その他 225 台)となりました。前年度 2,352 台から 20.74%の増加となりました。(レンタサイクル収益計 3,338,090 円)。更なる利用率向上を図るため、昨年度と同様伊勢市と連携し旅行商品(JR ずらし旅等)へのコンテンツ提供を行いました。OTA 販売はじゃらんに追加し、アソビューーでも開始しました。

【レンタサイクル利用者数表】

	外宮前 観光案内所	宇治山田駅 観光案内所	伊勢市駅 手荷物預り所	その他	計
令和 3 年度合計	808	87	1,720	225	2,840
令和 2 年度合計	931	117	1,163	141	2,352
増減	△123	△30	557	84	488
前年度対比	86.7%	74.4%	147.9%	159.6%	120.7%

⑤ 御遷宮対策事業(おもてなし行事部、事務局)

伊勢御遷宮委員会の一員として、次回の神宮式年遷宮へ向けて様々な協議を進めております。令和3年度も次世代継承を基軸に活動し、広報誌の発行や伝統行事の継承を軸に民俗行事の遂行への協力をしました。

第50回初穂曳記念事業については、コロナ禍により初穂曳自体は実施を中止することになりました。

⑥ 公益社団法人伊勢志摩観光コンベンションへ機構への協力

・伊勢志摩学生団体誘致委員会(事務局)

伊勢志摩地区への学生団体旅行の誘致を行う委員会へ参画し、誘客の企画やPR、伊勢市での歓迎行事等に協力しました。

・伊勢志摩フィルムコミッション(事務局)

伊勢志摩地区でのテレビ取材や映画撮影等の誘致、撮影協力を行う組織に参画し、情報の共有、撮影への協力等を行いました。

⑦ 伊勢商工会議所及び伊勢市との協力事業

・中心市街地活性化協議会への参画 ・伊勢まちづくり会社への参画

・伊勢御遷宮委員会への参画 ・その他

⑧ 各種大会の接遇(事務局) 163千円

下記の各種大会に歓迎看板または歓迎塔の設置を行った。

・神宮奉納社会人野球大会 ・伊勢神宮新穀感謝祭

・東京オリンピック聖火リレー

⑨ 地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修の実施

(おもてなし行事部、事務局)

伊勢市観光振興課と共催で、おもてなしにかかる初級英語研修を実施しました。当初集合研修を予定していましたが、コロナ禍のため、WEB開催となりました。

実施日:令和4年2月22日(火)14:00~17:00

参加人数: 13名

3 観光イベント事業

① 桜開き式(おもてなし行事部) 0千円

新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止しました。

・桜開花情報の発信 365千円

伊勢市の依頼により、桜の開花情報の収集と発信を行いました。

② 第16回観光交流伊勢会議及び第54回日本観光祈願祭

(観光交流伊勢会議実行委員会)

※詳しい内容は、1 広報宣伝事業 ⑦を参照してください。

- ③ **二見浦海水浴場 浜開き式**(おもてなし行事部)
新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止しました。
- ④ **第 69 回伊勢神宮奉納全国花火大会** (おもてなし行事部)
新型コロナウイルス感染拡大を受け、中止となりました。
- ⑤ **冬至の奉納**(おもてなし行事部) **26千円**
12月22日(水)に、柚子と南瓜を役員のみで神宮へ奉納しました。
- ⑥ **年越餅つき行事・年越餅の贈呈**(おもてなし行事部) **10千円**
新型コロナウイルス感染拡大を受け、餅つき行事、年越し餅贈呈行事は中止したが、役員で外宮に餅の奉納を行いました。
- ⑦ **「伊勢楽市」事業への協力**(事務局、青年部)
新型コロナウイルス感染拡大を受け、春、夏とも中止となりました。
- ⑧ **研修事業**(親会、青年部)
新型コロナウイルス感染拡大を受け、開催は中止しました。

4 協会が協力した諸行事

本年度、下記行事に後援及び協賛した。

- ・倭姫宮秋の例大祭
- ・おかげ横丁夏まちまつり
- ・来る福招き猫まつり
- ・おひなさまめぐり in 二見
- ・さるめ書道展
- ・伊勢神宮奉納書道展
- ・初穂曳(奉曳は中止)
- ・その他
- ・初午祭

5 市受託事業

① 観光案内所の運営

宇治山田駅構内案内所、伊勢市駅構内案内所、宇治浦田案内所、外宮前案内所、二見浦案内所において案内所員 10 名にて業務を行いました。二見浦案内所に関しては、二見旅館組合に委託しております。

※案内実績については「2 誘致接遇事業 ①観光案内所事業を参照

② 二見浦海水浴場 0千円

新型コロナウイルス感染拡大を受け、開設及び海水浴場でのイベント開催は行いませんでした。

③ 二見ビーチ活性化運営業務 6,136千円

二見地区への周遊を促進するための体験メニュー「絆体験」の造成、二見周遊事業「伊勢恋巡り」の2事業を行いました。

④ 伊勢市駅手荷物預り所運営

お客様の便宜を図り「手ぶら観光」を推進するために、伊勢市より受託運営をしております。

※詳細は、2 誘致接遇事業 ②手荷物事業を参照

⑤ 伊勢市クリエイターズ・ワーケーション

令和2年度に実施しましたが、コロナ禍により参加者の来勢が延期になり、令和3年度においても継続して受入を行いました。文化・芸術分野のプロのクリエイターが伊勢市内に宿泊滞在して創作活動に取り組むプロジェクト。

応募総数 1,271 人、参加確定者総数 132 人、令和3年度までの参加者 65 人となりました。(残りは令和4年度に延期)

6 新型コロナウイルス対策事業(伊勢市協働事業)

① 観光地感染防止対策事業

・熱中症対策事業 902千円

熱中症対策として、観光客に一時的に涼を取ってもらうためのミストファンを設置し、管理運営を行いました。

設置期間 令和3年8月2日(月) ~ 令和3年9月15日(水)

設置場所 外宮前観光案内所、伊勢市駅前広場

・伊勢クリーン大作戦 4,070千円

伊勢市内の主要観光目的地の沿道等に、誰にでも利用出来るクリーン設備(手指用消毒液設備)を観光客受入のためのおもてなしの一環として各事業所と連携し設置しました。

設置期間 令和3年4月1日~ 令和4年3月31日迄

※令和3年度事業継続中

設置台数 伊勢市内各所 65 か所設置(前年度 62 か所)

また、イベント貸出用スタンドを準備し、下記のイベントへ貸出しを行いました。

・ イベント名: 春まつり

台数 : 2 台

貸出期間 : 令和3年3月24日(水) ~ 令和3年4月12日(月)

- ・ イベント名: 聖火リレー受入
台数 : 6 台
貸出期間 : 令和 3 年 4 月 6 日(火)
- ・ イベント名: ラフェスタプリマベラ 2021
台数 : 6 台
貸出期間 : 令和 3 年 4 月 16 日(金) ~ 令和 3 年 4 月 17 日(土)
- ・ イベント名: 松尾観音寺 初午大祭
台数 : 2 台
貸出期間 : 令和 4 年 3 月 5 日(土)~3 月 6 日(日)

② 首都圏・関西圏期間限定店舗設置事業 19,777千円

観光客が減少する中、首都圏、関西圏で地域産品を販売し、伊勢市の観光 PR を行うことにより、地域産品の販路拡大及び認知度向上に繋げるとともに、コロナ禍が収束後の誘客に繋げるために期間限定店舗「ISE SHOP」を開設しました。

- ・ 設置場所:東京都町田市鶴間 3-4-1
グランベリーパーク ギャザリングマーケット
- ・ 設置期間:令和 3 年 10 月 29 日~令和 4 年 1 月 30 日
- ・ 実績:売上 10,217,573 円(税別)

- ・ 設置場所:神奈川県横浜市青葉区青葉台 2-1-1 青葉台東急スクエア
- ・ 設置期間:令和 4 年 2 月 2 日~令和 4 年 2 月 27 日
- ・ 実績:売上 8,970,683 円(税別)

- ・ 設置場所:大阪府吹田市千里万博公園 2-1 ららぽーと EXPOCITY
- ・ 設置期間:令和 4 年 2 月 8 日~令和 4 年 2 月 20 日
- ・ 実績:売上 1,533,694 円(税別)

③ @伊勢アクション「食泊みらいチケット」事業

期間延長を行い、令和 4 年 1 月 31 日をもって終了しました。

最終利用率は下記のとおりです。

- ・ 飲食チケット発行枚数 71,191 枚 : 利用枚数 69,708 枚 利用率 97.9%
- ・ 宿泊チケット発行枚数 5,159 枚 : 利用者数 4,885 枚 利用率 94.7%

④ 屋外体験型旅行商品造成事業 2,924千円

コロナ禍において、人気の観光コンテンツ「屋外体験」メニューに着眼し、新た

な屋外体験メニューの造成、既存コンテンツのブラッシュアップを行い、じゃらん体験メニューに特設ページを開設し、クーポン発行で利用促進を図りました。

- ・ 利用者実績 2,213 件
- ・ 利用金額 3,881,730 円

⑤ 観光地等混雑緩和事業 12,502千円

非接触型受入環境の一環としてデジタルサイネージ(電子看板)を用いて観光情報と合わせて混雑状況の配信を行いました。また、災害発生時には避難所情報の表示に切り替える機能を実装しました。

- ・ 設置サイネージ
委託事業者 株式会社バカン
クリーンタッチ自立式非接触式サイネージ STAR-5502 GPIRC 55 インチ
- ・ 設置場所
JR 伊勢市駅構内、伊勢市駅手荷物預かり所、宇治山田駅観光案内所、宇治浦田観光案内所、二見浦観光案内所

⑥ 伊勢市オンラインツアー等造成促成事業 7,781千円

コロナ禍において通常の旅行が出来ない中、オンラインツアーやオンライン講座、オンラインイベント等を造成・催行するための人的、物的資源の整備を支援する取組を通じて、観光事業者のオンラインビジネスの力を向上させる支援事業を実施した。

国内外で現地ツアーを販売する VELTRA 社と契約し、第一段階ではオンラインツアーについての講座を2回、そして講座修了者に対し実施事業者として募集をかけたところ、5事業者の応募があり審査の結果4事業者が選ばれ、実際にオンラインツアーの造成、販売を行った。

<実績>

- ・ オンラインツアー講座 参加23事業所
- ・ オンラインツアー造成、販売 8ツアー (4事業者 x 2ツアー)
- ・ モデルツアー 3回(観光協会実施)

⑦ 伊勢リピーターつながり構築事業 4,021千円

コロナ禍においては、毎年リピートして伊勢参りを楽しみに来訪していた参宮者が、2年近くにわたり伊勢参りに来ることが出来ないという状態になっていました。リピートの習慣が途切れたことで、このまま「毎年いかななくてもいいか」という方向に気持ちがシフトすることが危惧されたため、伊勢にとって大切なその顧客層に働きかける事業を行い、アフターコロナに向け伊勢参宮のリピート習慣を取り戻す取り組みを行いました。具体的には、次の事業に取り組みました。

(1)「伊勢の思い出キャンペーン」の実施

伊勢市観光協会ホームページ内に「伊勢の思い出キャンペーン」ページを構築し、「こころのふるさと」をテーマとして伊勢の思い出を募集しました。結果として、1,607 件の応募がありました。集まった思い出は審査を行い特賞・本賞を決定、商品を送付するとともに、合計 116 件をホームページで公表しました。また、応募した方の中から抽選で 200 名(特賞・本賞とは別)に伊勢の産品をプレゼントし、コロナ禍で売上げが減少した伊勢の産品を購入して事業者を支援するとともに、お客様に届けて広報しました。

(2)伊勢の気持ち(心)が伝わる動画の作成・発表及び冊子の送付

伊勢の気持ち(心)が伝わる動画を作成し、伊勢市観光協会の YouTube チャンネルに掲載しています。動画の作成にあたっては、画面を美しく見ていただくための字幕無版と、バリアフリーの観点から字幕有版を作成しました。また、動画の内容をまとめた冊子を 7,000 部作成しました。この冊子は、思い出キャンペーン応募者の他に、伊勢市及び伊勢市観光協会につながりがある方、伊勢市観光協会会員事業様につながりがある方へ発送致しました。

応募された方々の伊勢の思い出は「人と人」、「人と伊勢」のつながりの素敵な思い出ばかりでした。コロナ禍で観光にとっては苦難の時ですが、伊勢の気持ちを伝えようとした伊勢リピーターの方から、私たち自身が大切なメッセージを伝えていただいた事業となりました。

7 青年部活動 ※青年部総会資料より抜粋

◇伊勢のまち発展委員会

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「研修視察」「インバウンド促進事業」「親睦家族会」「新年交流会」「ナイトタイムエコノミー推進事業」は自粛させていただきましたが、下記の事業報告の内容にある通り総務系の事業を中心に活動しました。

●事業報告

- ・青年部手帳の作成 5 月 100 部作成を行った。
- ・青年部ホームページの管理 青年部ホームページをリニューアルした。
- ・名簿の管理 新入会員の名簿の追加作業
- ・「ええじゃないか伊勢」の作成(親会と共同)
親会用誌面、青年部用誌面、それぞれ 600 部作成し、郵送にて配布。
- ・グループウェアの管理 エンジェルタッチの運用、リモート会議室 Zoomの活用。

- ・ナイトタイムエコノミー推進事業 自粛のため、未実施。
- ・インバウンド促進事業(親会と共同)自粛のため、未実施。
- ・研修視察、親睦家族会、新年交流会 自粛のため実施せず。
- ・総会の運営 総会資料の作成、資料の配布手配を実施。

●委員会開催数 6回

◇伊勢PR 委員会

伊勢市の観光情報発信、誘客に繋がる活動を行いました。

①観光 PR キャラバン事業、②SNS 情報発信事業、③物販事業、④レンタサイクル PR 活動事業の4つの事業を通して、広く伊勢を PR するための活動をいたしました。

●事業報告

◆観光 PR キャラバン

・今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため『東京大神宮観光 PR』を自粛いたしました。

◆SNS 情報発信事業

・「伊勢フォトグランプリ3」の開催 312千円

伊勢市の情報発信拡大を目的として、伊勢市を訪れた観光客や地元民などプロ・アマ問わず「Instagram」を通じて伊勢市内で撮影した画像を発信していただくことにより、伊勢市の魅力を様々な視点から多くの人に知っていただくきっかけとなるように開催いたしました。当イベントのInstagram公式アカウント【@isephoto_grandprix】をフォローし、撮影した写真に、【#いせフォト3】のハッシュタグをつけて投稿していただきました。

1,744 名のフォロワー(参加者)に投稿いただいた 2,488 枚の作品の中から、20 枚の素敵な作品を選考し写真パネル加工を施しました。

写真パネル加工を施した作品は、写真展開催やPRキャラバン時に展示するなど様々な活用が出来ます。写真展の開催は、参加者の意識向上に繋がり、受賞者の方々が伊勢を再訪するきっかけにもなるものと期待しています。次年度も継続して伊勢市の魅力ある情報発信ができる当イベントを継続します。

・「SNS 動画」制作 443千円

伊勢市の情報発信拡大と誘客を目的として、伊勢の魅力を多くの方に発信するためにインフルエンサーとコラボした「Vlog」動画の制作をしました。日々、世界中の何百万人ものユーザーがアクセスする「YouTube」を活用し、【伊勢】をテーマした「Vlog」動画発信により、新たなユーザーへの情報発信・誘客に繋がります。さらに、SNS 上で多くの方の目に留まるように努めます。また、伊勢での観光、食事、宿泊、アウトドア等のキーワードを集めてもらった動画で目標 1 万回再生を目指したところ、年度末の 3 月 31

日時点で再生数 24,496 回になっており、これからも再生数の上昇が期待できると思います。

昨今、密を避けた観光コンテンツとしてキャンプやグランピング等の屋外体験メニューのニーズが高まっている中で、アウトドア動画で人気の YouTuber である「ビートないと」氏(チャンネル登録者数 11.6 万人)を採用し、動画制作後の視聴再生数に特化するためインフルエンサー採用を行い、ゴールである「伊勢を知ってもらうこと、来てもらうこと」を論点に進めてきた結果、予想以上の反響がありました。

◆物販事業

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため県外 PR 事業を自粛したため、連動する物品販売は開催していません。

◆レンタサイクル PR 活動事業

レンタサイクル「伊勢 MY りん」を利用したエコツーリズムに繋がる PR 活動を行いました。

◆委員会開催数 5 回

◇ほないこ！まいりんくん実行委員会

伊勢市観光協会公式キャラクター「伊勢まいりんくん」を使用した全国各地での PR 活動・地元でのイベント・メディアへの露出を行うことで伊勢の魅力を発信しました。

さらに近隣のキャラクターや団体との情報共有やイベント開催の連携を図り、協力して伊勢志摩全体の観光誘致活動を行いました。

●事業報告

◆イベント出演・観光 PR 活動 12千円

・新型コロナウイルス感染症の流行により、イベントや PR 活動が中止になったため、着ぐるみ出演は 2 回でした。

出演 4/7 聖火リレー (外宮前広場)

貸出 11/29 2525 マルシェ(あじ横産直市場)

・SNS にて、ぬいぐるみを用いた投稿や、伊勢の情報のシェア等を行いました。

・伊勢市内郵便局にて、郵便・ゆうパック利用時に貼れるキャラクターシールのキャンペーンに参加しました。

◆地域の大学等との連携・ボランティアスタッフの募集

・今年度は、皇學館大学CLL地域学習支援室と連携しての活動は休止しました。

◇Rise Up 特別委員会

令和3年度 Rise Up 特別委員会では前年度に多くの会員が卒業されたため、新規会員の拡大事業を全会員で行いました。

●事業報告

・オープン例会の開催。

コロナウイルス感染症拡大防止のため自粛。

・会員拡大

令和3年度新規入会者12名。

・オリエンテーションの開催。

新規入会者12名のオリエンテーションを開催した。

●委員会開催数

1回

<収益目的事業—賃貸事業> 707千円

・伊勢市駅前ビル 鉄筋4階建て ・風餐亭 1F 研修室

伊勢市駅前ビルを賃貸物件として運用、風餐亭1F研修室は貸し会議室として運用しています。所有物件に関しては、消防法の順守などのために修繕及び備品調達を行いました。伊勢市駅前建屋消防法対策工事として、非常口サインの交換、消火器の設置を行いました。

<収益目的事業—物品販売事業> 53,147千円

昨年度開設した「新型コロナウイルス緊急支援サイト EC ショップ」を引き続き運営しました。購入者メリットの創出のために4,000円以上購入者に割引クーポンの発行、2,000円以上購入の場合、送料を無料にするキャンペーンを一定期間行いました。令和3年度の売上は2,295,677円です。

伊勢市ふるさと応援寄附金事業に関しては返礼品の受付発送業務だけでなく、事業のPR、パンフレットの作成及び返礼品の受付業務をこなうと同時に、寄附者からの問い合わせ等にも対応しました。令和3年度の実績として、寄付件数が10,427件(前年6,196件)、寄附額が431,345,484円(前年425,334,420円)となり、前年度の実績を上回りました。

要因としては返礼品の登録事業者数が100を超え返礼品の選択肢が大幅に増えた事が予想されます。

また、首都圏・関西圏期間限定店舗設置事業(コロナ対策事業)として、昨年横浜市たまプラーザテラスで開設した「ISE SHOP」を、東京都町田市「グランベリーパー

ク)、横浜市「青葉台東急スクエア」、大阪府吹田市「ららぽーと EXPOCITY」で開催しました。詳細はコロナ対策事業参照。

<収益目的事業—その他(会員互助事業)> 148千円

広報誌「ええじゃないか伊勢」の発行(情報発信部会、総務委員会、青年部) 情報発信部会及び青年部総務委員会の共同制作の会員広報誌として、第38号を6月8日に600部発行しました。

<法人事業—中期政策検討部会> ※法人事業(会計)に含む

本部会では、協会運営に関わる重要事項やコンプライアンス対応を、協議及び実施しております。本年度は引き続き収益改善にむけて、既存収益事業の改善を図るとともに、各種規定の整備による職員の待遇改善を行いました。

今年度は、DMOの取得を目指しDMO候補法人への申請を行いました。

<<令和3年度における、当会の決算状況について>>

令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症により事業実施に大きな影響を受けました。当会会計上におきましても、公益社団法人が満たすべき会計3基準、

- ①収支相償(公益目的事業に係る収入がその実施に要する適正な費用を償う額を超えてはいけない)
- ②公益目的事業比率(公益目的事業の費用が事業費・管理費の合計額の50%以上でなければならない)
- ③遊休財産額保有制限(具体的な用途の定まっていない財産の額は、1年分の公益目的事業費相当額を超えて保有できない)

につきまして、本来であれば、3つ全てを満たさなければなりません。令和3年度におきましては、①収支相償において、公益事業が黒字となり剰余金が発生し、1つの基準を満たすことができませんでした。

公益事業が黒字決算となった要因としては、新型コロナウイルス感染拡大により当会根幹事業である旅客誘致及び接遇事業(協会100%負担と協会50%負担の事業)の実施が出来ず、本来使用する事業費を使用しなかった事と、伊勢市よりの新型コロナウイルス対策事業(伊勢市100%事業)を実施したことによる手数料の収入増が主なものです。この公益事業の剰余金につきましては、公益法人所轄官庁の三重県と協議を行い、令和4年度事業において使用し解消を図ります。